

CASBEE[®] 熊本《新築》【性能表示】

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	kakkoi OZU	階数	地上10階、地0階
建設地	熊本県熊本市中央区大字杉本大字 3191-1 の一部、室戸野平 1607-1、1607-4	構造	S造
用途地域等	市街化調整区域	平均居住人員	183 人
省エネ・地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2027年4月 予定	評価の実施日	2026年1月15日
敷地面積	3,720 m ²	作成者	アトリエ・ホロニカー級建築士事
建築面積	897 m ²	確認日	
延床面積	8,245 m ²	確認者	

2 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.9

■ BEE(環境効率) = $\frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)

排出率 73%

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

3 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

評価点 69

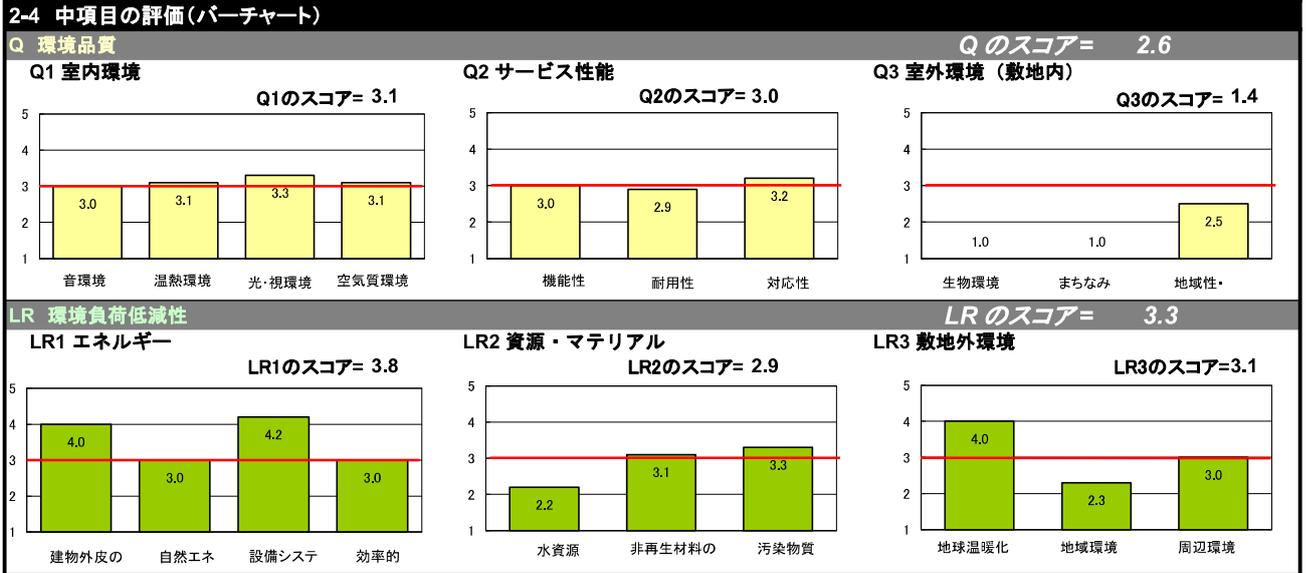
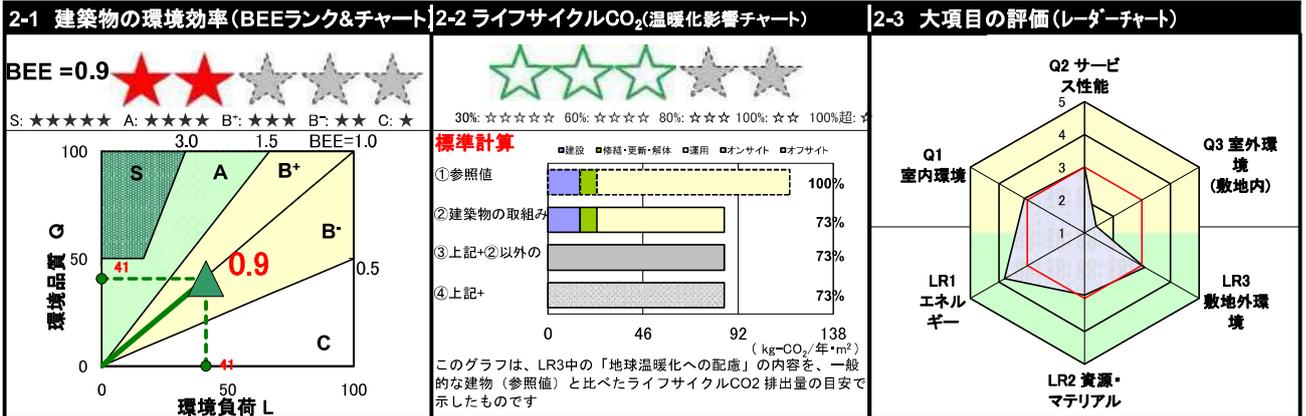
■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	🍪🍪🍪🍪🍪
80点以上100点未満	🍪🍪🍪🍪
60点以上80点未満	🍪🍪🍪
40点以上60点未満	🍪🍪
40点未満	🍪

※評価点は、100点以上が推奨です。

重点事項	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	84.1
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	48.7
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	50.0
【重点事項4】 循環型社会の実現	77.2

1-1 建物概要				1-2 外観
建物名称	kakkoi OZU	階数	地上10階、地0階	
建設地	熊本県熊本市中央区大字杉木町 3791-1 の一部、室号第 1607-1、1607-2	構造	S造	
用途地域等	市街化調整区域	平均居住人員	183 人	
省エネ:地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)	
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工時期	2027年4月 予定	評価の実施日	2026年1月15日	
敷地面積	3,720 m ²	作成者	中村清久	
建築面積	897 m ²	確認日	2026年1月20日	
延床面積	8,245 m ²	確認者	中村清久	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

スコアシート 実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	Q1		Q2		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						2.6
Q1 室内環境			0.40		-	3.1
1 音環境		-	0.15	3.0	1.00	3.0
1.1 室内騒音レベル		-	-	3.0	0.50	
1.2 遮音		-	-	3.0	0.50	
1 開口部遮音性能		-	-	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能		3.0	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音		3.0	-	3.0	-	
2 温熱環境		-	0.35	3.1	1.00	3.1
2.1 室温制御		-	-	3.3	0.50	
1 室温		-	-	3.0	0.63	
2 外皮性能	外皮等級4	-	-	4.0	0.38	
3 ゾーン別制御性		3.0	-	-	-	
2.2 湿度制御		-	-	3.0	0.20	
2.3 空調方式		-	-	3.0	0.30	
3 光・視環境		-	0.25	3.3	1.00	3.3
3.1 昼光利用		-	-	4.0	0.30	
1 昼光率	昼光率2.0以上	-	-	5.0	0.50	
2 方位別開口		-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備		-	-	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		-	-	3.0	0.30	
1 昼光制御		-	-	3.0	1.00	
3.3 照度		-	-	3.0	0.15	
3.4 照明制御		-	-	3.0	0.25	
4 空気質環境		-	0.25	3.1	1.00	3.1
4.1 発生源対策		-	-	4.0	0.63	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用	-	-	4.0	1.00	
4.2 換気		-	-	1.6	0.38	
1 換気量		-	-	1.0	0.33	
2 自然換気性能		-	-	1.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		-	-	3.0	0.33	
4.3 運用管理		-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		3.0	-	-	-	
2 喫煙の制御		3.0	-	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.0
1 機能性		1.4	0.40	3.8	1.00	3.0
1.1 機能性・使いやすさ		1.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性		3.0	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応	CAT5e	-	-	5.0	1.00	
3 バリアフリー計画		1.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観		-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理		2.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		2.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.1	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		2.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		2.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		1.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.2	0.30	3.2	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり			-	-	3.4	0.50	
1 階高のゆとり			-	-	3.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ		0.215→レベル4	-	-	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.2	1.00	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性		ケーブルころがし配線	5.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	1.4
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			1.0	0.40	-	-	1.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制		等級4相当	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.89	4.2	0.50	-	-	4.2
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-	
集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護			2.2	0.20	-	-	2.2
1.1 節水			1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	1.00	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.1	0.60	-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		断熱材(押出法ポリエチレンフォーム)	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		LGS	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		ノンフロン断熱材の採用	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2の排出率が一般的な建物と同等	4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮			2.3	0.33	-	-	2.3
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			2.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.50	-	-	
2 振動			3.0	0.50	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			1.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

建物名称 *kakkoi OZU*

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

熊本県重点評価結果				総合評価点		69
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				84.1	0.40	33.64
Q1-2.1.2	外皮性能	4.0	0.00			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.00			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.00			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	4.0	0.18			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.24			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.2	0.35			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.12			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	2.0	0.12			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				48.7	0.20	9.74
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	1.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				50	0.20	10.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	1.0	0.20			
LR2-1.1	節水	1.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				77.2	0.20	15.44
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.1	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.2	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数)の総和
※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数)の総和 × (5/4) × 20
※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数

■ 環境関連の配慮事項

kakkoi OZU

印刷:モノクロ
設定済み

・適宜、箇条書き等で記入してください。

・キーボード操作: 改行の際は【Alt】キー&【Enter】キーで次の行に進みます。

計画上の配慮事項		※必ず、何らかのコメントを記入してください。
総合	自然換気が可能な開口部を各住戸に設置し、室内の安全性の面からF☆☆☆☆の内装材を採用。 また、外皮等級4、一次エネ等級4の省エネ適合住宅	
Q1 室内環境	F☆☆☆☆の建材を採用している。	
Q2 サービス性能	情報社会に対応し光配線以上を導入。	
Q3 室外環境 (敷地内)	特になし	
LR1 エネルギー	BE10.89	
LR2 資源・マテリアル	安全面からノンフロン断熱材の採用	
LR3 敷地外環境	光害の抑制を行っている	
その他	特になし	